

GPW 奨学生報告書 2017 年度前期

平素よりお世話になっております。NPO 法人アクションの山本です。

2017年6月より新学年が始まり、奨学生はそれぞれ新学年での学校生活をスタートさせました。奨学生のひとりであるチトが、家庭の事情により1年間の休学を決めたため、今年度は7名の奨学生への支援となりました。

今年度前期のこども達の様子を下記のとおりご報告させていただきます。学校での様子の他、8月、9月には日本人ボランティアとともに、青空教室やワークショップ（フィリピンと日本において学校や家庭でこども達が抱える問題の違いや震災時における違いなどについて学ぶ）を実施しました。そちらの様子なども併せてご報告させていただきます。

①Balanquit, Reymon P. (9年生)

9年生になったレイモンは、すぐに新しいクラスに馴染み、問題なく新学年をスタートさせたとのことでした。前期の授業においては、昨年度に続いて数学が得意教科であると話しています。昨年度の数学の授業で定理や公式などをしっかりと理解できていたことが、今学年でも数学の授業に対する理解に役立っていると思われます。この調子でしっかりと数学の基礎に対する理解を保ちながら、後期の授業も頑張っていって欲しいと期待しています。

控えめでおとなしい性格のレイモンは、ストリートエデュケーションやワークショップなどのアクティビティにおいて、率先して自分の意見を言うことが苦手であるという課題もありますが、他人の話をしっかりと聞き入れ、他人と協力して物事を達成させようとする姿勢は、他のこども達にとって良いお手本となっています。協調性を重視し、アクティビティが成功するようにサポートするレイモンの存在は、奨学生のなかで大きな役割を担っています。

②Bautista, QM D. (9年生)

9年生になったキューエムは、レイモンと同様、すぐに新しいクラスに馴染み、問題なく学校生活をスタートさせたとのことでした。持ち前の明るく陽気な性格で、先生や友達とも良好な関係を築けており、楽しく学校生活を送って

いるとのことでした。

授業では、数学が得意教科であり、数学に関してはクラスでも上位の成績であるなど、自信をもっているとのことでした。一方、英語が苦手であり、英語以外の言語の使用が禁止されている英語の授業では苦労しているとのことでした。けれども、ストリートエデュケーションやワークショップなどで、日本人ボランティアとの交流があった際には、苦手な英語を使って、日本人ボランティアと交流しようとしている姿を見かけました。このことが彼のモチベーションとなり、英語に対する理解を更に深め、上達するよう意欲的に授業に取り組んでもらえればと思っています。成績に関しても、前期はひとつの教科も落とすことなく、非常に良い成績を残すことができています。

ストリートエデュケーションやワークショップの際には、途中で集中力が切れ、アクティビティと関係ないことをしてしまうことが課題としてありますが、アクティビティの参加率は非常に高いです。また、ストリートエデュケーション終了後の掃除を率先して行ったり、アクティビティで使用する備品を率先して運んだりするなど、他のこども達にとって見本となるような行動もしっかりととれています。少しずつ現在の課題を克服していき、更に良い見本となってくれることを期待しております。

③Caranzo, Cristy B. (9年生)

新たに9年生となったクリスティですが、新学期が始まって最初の3週間程は、新しいクラスに馴染むことができずにいたとのことでした。人見知りの性格で、なかなか自分からクラスメイトに近づいていくことができず、友達をつくることができないでいたとのことでした。けれども、その後はだんだんとクラスに慣れていき、友達もでき、クラス内でもより活発な行動をとれるようになったとのことでした。

勉強面では、フィリピン語の授業が担当の先生の教え方がうまく、とても楽しいと話していました。また、理科の授業で学んだ体のパーツに関する授業や、タバコが身体に与える影響について学んだ授業が、将来お医者さんになる夢をもつクリスティにとって、大変興味深く面白かったそうです。成績に関しては、前期のテストではひとつの教科も落とすことなく良い成績を残しました。特に第2回目のテストでは、90点以上の教科を6教科も取るなど、とても優れた

成績で前期の学業を終えることができました。将来、日本でお医者さんとして働きたいという彼女の夢に向かって、これからも勉強に勤しみ、後期は更に良い成績を修めてくれることを期待しています。また、前期は皆勤で学校に通学しており、勉強に対する彼女の高いモチベーションを感じることができます。

8月と9月に実施したストリートエデュケーションでは小さいこども達の面倒見もよく、頼れるお姉さんとしてこども達を引っ張っていました。また、同時期に実施した、サイコソーシャルアクティビティの一環である日本人ボランティアとのワークショップでは、積極的に発言をしたり、日本人ボランティアとコミュニケーションを取ったりするなど、意欲的な姿勢でアクティビティに参加していました。明るく、好奇心旺盛なクリスティの姿勢は、アクティビティに参加したこども達や他の奨学生にとっても良い影響を与えているように感じられます。

④Domingo, Precious Jane C. (11年生)

新たに11年生となったプレシャスは、高校の後期課程（日本においては高等学校教育にあたる）に進学しました。後期課程の授業は今までよりも更に難しくなり、クラスみんなの前で発表する機会や宿題が今までよりも多く、とても大変になったと話していました。課題や宿題が以前よりも増え、寝不足になったりもしますが、新しい友達もでき、学校はとても楽しいとのこと。また、後期課程での学校生活を、自分の創造力やコミュニケーション能力を高めるための場として大きく役立てたいと話してくれます。

授業では、政治学や文学などを学び、特に政治学でフィリピンの現状、フェミニズムやグローバルゼーション、ロシアの哲学者カール・マルクスについて勉強したことがとても面白かったそうです。一方、数学の授業がとても難しく、苦手な教科になっているとのことでした。けれども、少しずつ理解できるようになり、苦手な部分を克服できているとのこと。成績においては、前期の第1回目のテストでは90点以上の教科はありませんでしたが、第2回目のテストでは4つの教科で90点以上の成績を取ることができました。後期課程に入り授業内容も難しくなりましたが、そこから逃げずにしっかりと向き合い、真面目かつ一生懸命に取り組むプレシャスの姿勢が、成績のアップにつながったのではないかと感じています。また、前期に皆勤で学校に通学したことは、

とても評価できることだと思います。

ストリートエデュケーションでは、メインファシリテーターとして、アクティビティ全体を統括する大きな役目を果たしてくれています。たまに冗談を言ったりもしますが、人一倍責任感も強く、その場その場で切り替えのできる頼もしいリーダーとして頑張っています。

自分の苦手なものや困難な状況もしっかりと受け入れ、更にそれが自分を成長させてくれるプラスのものとして捉えられることが、プレシャスの大きな長所だと思います。そして、そのことが彼女の成長に大きく貢献していると感じています。

⑤Labana, Jornalyn (11年生)

プレシャスと同様に高校の後期課程に進学したジョルナリンは、料理の授業を選択科目として選びました。料理好きのジョルナリンにとって、この授業はとても面白く、学校が楽しいと話しています。後期課程の学校生活では、きまった休み時間がなく、また料理の授業の準備などのために昼食の時間が遅くなることもあるそうです。新しい学校生活のリズムに慣れるのが大変とも話していましたが、とても楽しく学校生活を送っているとのことでした。

勉強面では、自分自身で選択した料理の授業で、新しいメニューを学べることなどが楽しいとのことでした。また、サンドウィッチを作る調理実習もあり、その実習で作ったサンドウィッチを学校のバザールで販売するという機会もありました。

一方、英語が彼女の苦手教科であるとのことでした。授業中は英語しか使用できず、伝えたいことがなかなかうまく表現できないことが大変だと話していました。けれども、成績においては、苦手である英語の科目も80点以上を取るなど、苦手なものに対してもしっかりと向き合い、克服しようと努力する姿が感じられます。また、体育では96点という好成績を残すことができました。

ストリートエデュケーションなどの活動では、プレシャスと共に最年長としてみんなをまとめることができているようです。周りをしっかりと見ることができおり、困っているこどもがいるとすぐにサポートできることが彼女の大きな長所だと感じています。

⑥Liquidio, Joven A. (10年生)

10年生に進学したジョベンは、以前の病気の影響もあり、天候により頭痛やめまいを感じたりすることもあるようですが、大きく体調を崩すことなく、元気に学校に通っています。

学校では、社会が好きな科目だそうです。授業で環境について学び、環境を保護するためにはどのような取り組みをすれば良いのかを知ることができ、とても面白かったと話していました。また、英語も得意教科ではないけれど好きな教科とのことで、もっともっと英語がうまくなりたいと話しています。

一方、数学が苦手教科で、授業を理解することが大変だと話していました。けれども、授業後に個人的に先生に質問をしたり、クラスメイトに教えてもらったりするなど努力し、苦手な数学を克服しようと頑張っているとのことです。成績に関しては、前期の第2回目のテストで、苦手教科である数学とフィリピン語を落としてしまいましたが、追試を受け、その2科目も無事に合格できたとのことです。後期はしっかりと克服し、ひとつの教科も落とすことなく成績を修めることができるように期待しています。

また、ストリートエデュケーションのグループアクティビティの際には、年齢の違うメンバーで構成されているグループでうまくみんなの意見を引き出すなど、グループリーダーとして上手にグループをまとめあげています。また、他人に対して配慮のできるやさしい人柄もジョベンの大きな長所です。苦手なことや困難なことからも目を背けずに、それを克服しようと努力できるジョベンの今後の成長に大きな期待を寄せています。

⑦Velasco, Aris (9年生)

9年生になったアリスは、TLE(Technology and livelihood Education)という授業が楽しいと話しています。担当の先生がとても良く、厳しい面も多々あるようですが、一方で教え方が上手く、とても楽しい先生とのことです。教室内は生徒が集中して授業に参加する雰囲気になっており、その雰囲気の中で勉強できることがとても良いとアリスは話していました。良い先生と巡り会い、その先生のもとで、楽しく勉強に取り組んでいることを大変嬉しく思っています。

前期の成績においては数学・英語・フィリピン語の3つの教科で赤点を取っ

てしまいました。これらの教科で成績が悪かった理由としては、授業の内容を理解できてないということよりも、課題を提出しなかったことが大きな要因となっているとアドバイザーの先生から指摘がありました。今後、しっかりと課題を提出していけば成績をあげることも可能であるため、後期はアリスがしっかりと課題を提出していけるようにサポートしていきたいと思います。

ストリートエデュケーションやワークショップのアクティビティに関しては、家庭の事情などにより欠席が多いという状況です。また、自分の意見を主張すること、率先してグループを引っ張っていくということが苦手であるという課題があります。一方、アリスには家族思いで、他人に対しての思いやりも深く優しいという長所があります。アリス自身が自分の長所に自信を持ち、能力を発揮して成長していくことができるよう、引き続きサポートしていければと思います。

今年度前期は、7名の奨学生が新しい学年に進級し、それぞれ授業に励みました。一方、チトが家庭の事情により休学するなど、家庭の状況が子ども達の学業に影響を及ぼしてしまうという現状を痛感しました。チト以外の子ども達も、自分たちの置かれている状況や環境のなかで、様々な問題と向き合いながら学業に励んでいます。家庭の事情など、当会がコントロールしきれない部分もありますが、できる限り子ども達に寄り添い、子ども達が良い精神状態と環境のもとで勉強に励むことができるように、担当スタッフと共にサポートしていきたいと考えています。

最後になりましたが、今年度も子ども達に温かいご支援を賜りありがとうございます。子ども達がより一層学業に励み成長できるよう、担当スタッフと共に尽力していきたいと考えています。今後とも温かい目で見守っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

報告者：山本 浩平（フィリピン事務所現地調整員）

2017年12月15日

【アクティビティでの奨学生の様子】



* 青空教室にて、グループリーダーとして進行役を務める奨学生。



* 青空教室にて、こども達をまとめる奨学生。



* 日本人ボランティアと実施したワークショップにて、フィリピンのこども達の現状について発表する奨学生。